

フォトグラファーズ & フォトビジネスフェア

# PHOTONEXT 2022

## 【開催レポート】

2022年6月7日[火]-8日[水] パシフィコ横浜 Bホール

**Step Up IMAGING** ~次なる写真映像ビジネス開拓~



主 催 : 株式会社プロメディア  
主催団体 : 写真感光材料工業会  
日本フォトイメージング協会  
一般社団法人日本写真映像用品工業会

## 1. 開催概要

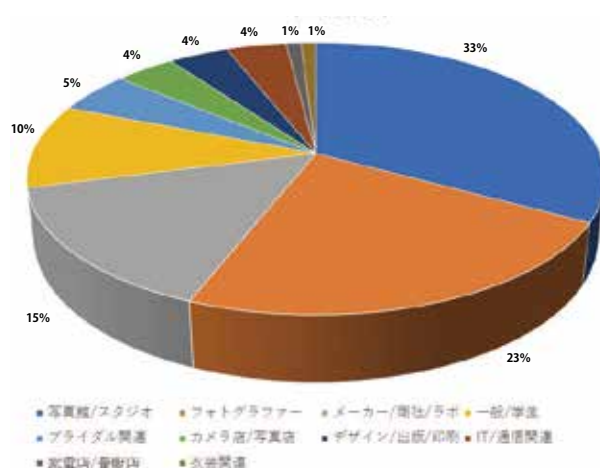
- 開催期間：2022年6月7日（火）～8日（水）  
搬入日：6月6日（月）
- 展示会場：パシフィコ横浜 B ホール
- 業界団体併催セミナー会場：2F 会議室、会議センター
- 出展社数と出展小間数：77社 203小間  
（テーブル出展含む）
- 主催：株式会社プロメディア
- 主催団体：写真感光材料工業会  
日本フォトイメージング協会  
一般社団法人日本写真映像用品工業会
- 特別協賛：日本営業写真機材協会
- 後援：東京都 横浜市
- 協力：カメラ記者クラブ  
公益財団法人国際文化カレッジ  
全国記念写真事業協同組合  
全日本写真材料商組合連合会  
一般財団法人日本カメラ財団  
公益社団法人日本広告写真家協会  
公益社団法人日本写真家協会  
一般社団法人日本写真学会  
協同組合日本写真館協会  
公益社団法人日本写真協会  
日本写真芸術学会  
一般社団法人日本写真著作権協会  
一般社団法人日本写真文化協会 ※50音順

### ■登録来場者数：受付で発行した入場者証の実数

	入場者数	前回実績
6月7日	4,761人	3,586人
6月8日	3,215人	1,971人
合計	7,976人	5,557人



### ■来場者層



・構成比（カッコ内は前回実績）は、写真館/スタジオが33%（38%）、フォトグラファーが23%（22%）、メーカー/商社/ラボが15%（14%）、一般/学生が10%（8%）、プライダル関連ビジネスが5%（4%）、デザイン/出版/印刷が4%（4%）、カメラ店/写真店/DP ショップが4%（4%）、IT /通信関連ビジネスが4%（3%）、衣装関連ビジネスが1%（2%）、家電店/量販店が1%（1%）となりました。ここ数年、大きな変動はありませんが、2022年は学生の来場が微増するなど、年々若年層が増加している傾向にあります。

### ■取材プレス

・会期中は新聞社やカメラ雑誌社、写真業界誌（紙）など計21社に取材していただきました。

### ■PR活動

・会期1ヵ月前に「開催案内パンフレット」を約10万部制作し、過去来場者に加え、出展各社の取引先にも広く配布させていただくとともに、業界団体会報誌への同封、フォトギャラリーや横浜市の観光案内センターおよび主要施設でも配布いただきました。また公式ホームページや公式LINEアカウントをはじめSNSにおいて、出展ブース情報やアウトレット出品物、セミナープログラム等を案内しました。



## ■開催主旨・内容

・「PHOTONEXT2022」は、主催：株式会社プロメディア、主催団体：写真感光材料工業会、日本フォトイメージング協会、一般社団法人日本写真映像用品工業会により、前記の概要にて開催されました。

・「フォトグラファーズ&フォトビジネスフェア」のコンセプトを掲げ、「写真の撮影分野と写真関連商品の流通分野を対象に、市場の活性化と需要拡大、さらには展示会とセミナーを通じて撮影に携わるプロフェッショナルとビジネス関係者のレベルアップを図り、あわせて消費者に写真・映像の豊かな喜びを提供し、充実したライフスタイルづくりに貢献する健全な業界形成と発展を目指す」ことを目的に開かれました。

・2021年はコロナ禍による影響を受け、出展小間数の減少に伴い、展示ホールを前回（2019年）のABホールからBホールのみにも縮小。2022年もオミクロン株の猛威等が少なからず影響しましたが、感染者数の減少に伴い規制も緩和されてきたなかで、コロナ禍前に出展していた企業も徐々に戻ってきました。結果的に、出展社数および小間数は前年よりも増加しました。

・2020年より、オンライン化が一層加速しました。言うまでもなくコロナ禍による影響で、写真業界も例外ではなく、オンラインによる情報発信が目立ちました。

・業種によって異なるも、ITや通信系をはじめオンラインでも成立する催しは、2年以上が経過した現在も引き続き展開されています。一方で、リアルとオンラインのハイブ



リッド形式で行われているケースも見受けられます。それぞれに特性があり、メリットもあればデメリットもあります。記者会見も同様といえます。発表会レベルであれば、オンラインでも十分に成立するような流れになっていますが、主催者の意向などによって採択は区々です。

・フォトビジネスをはじめ、さまざまな業種に共通していえるのが「新たな価値の創出」。以前のような生活スタイルに戻る可能性が低いのであれば尚更で、良い転換期と捉え、PHOTONEXTも次なる一手を打ち出そうと考えました。そこで本年のテーマは「Step Up IMAGING ～次なる写真映像ビジネス開拓～」とし、国内で唯一、最大スケールで開催する本フェアがその道標になれば、との想いを込めました。

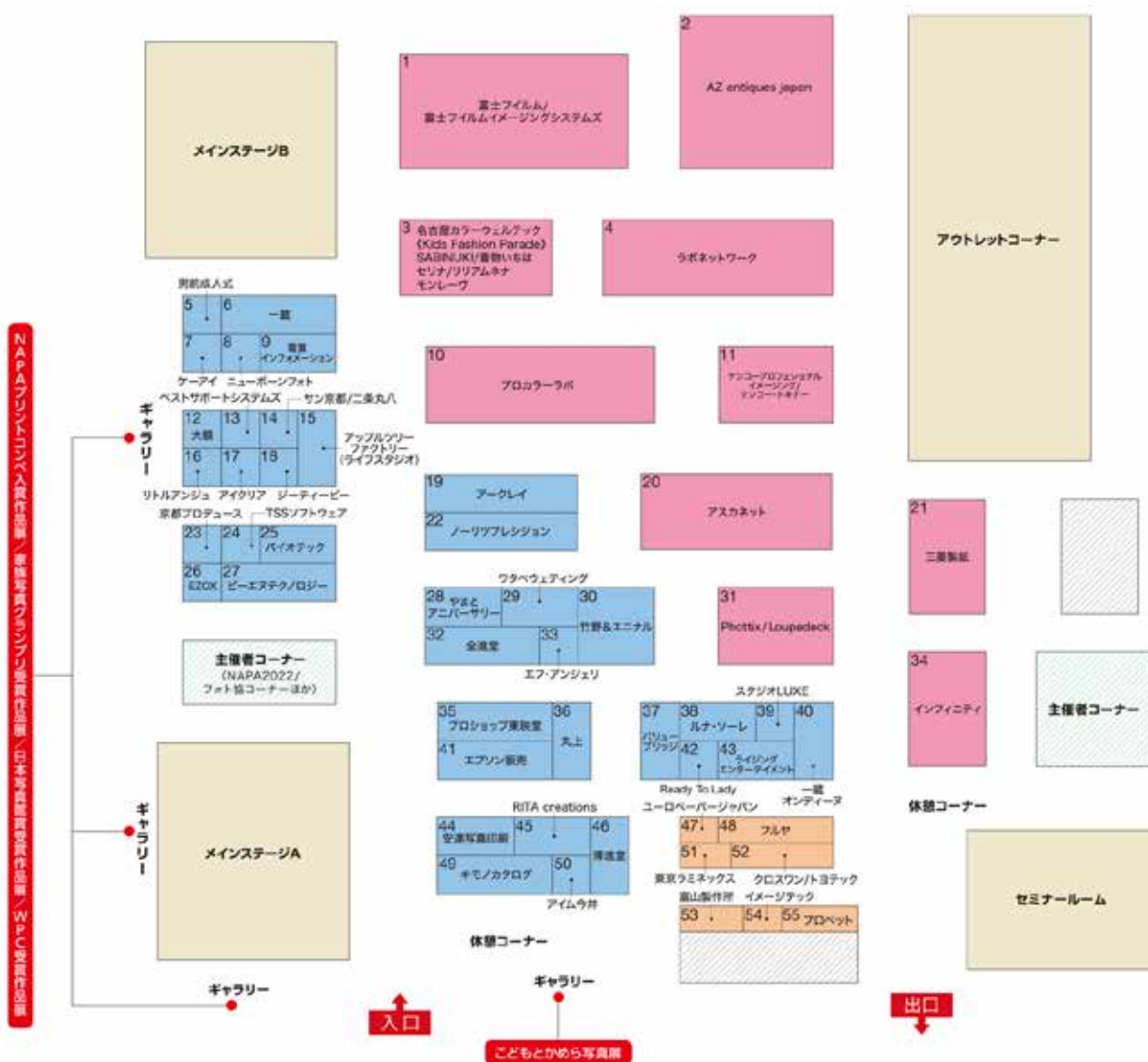
・一方、オンラインによる情報発信も行なってきましたが、その主な位置付けは「6月のリアル開催」への橋渡しです。前年の出展社アンケートでも、約9割が「次回もリアル開催を希望」と回答されています。来場者も、実物を手に取ったり、それを見ながら直接ブース担当者との情報交換することに「価値」を見い出しています。2022年も、そんなブースや来場者の姿が至るところで見られました。

・感染症予防としては「全参加者へマスク着用の徹底」「出入口で体温測定」「アルコール消毒液の設置」「扉の開放、空調設備による常時換気」「セミナー会場での座席感覚の確保」など、一般的なイベントや展示会で取り入れられている対策を講じました。これらの内容を、公式サイトや開催案内パンフレットに記すとともに、会場内にもサイン看板にてアナウンス。休憩コーナーでも「大声を出さないこと」「飲食はできる限り控えること」等を案内しました。

・出展マニュアルを通じて出展社への協力も呼びかけ、各ブースでも対応が図られました。受付も開場前は長蛇の列ができましたが、ソーシャルディスタンスを取り入れるなど、極力密にならないように心がけました。発熱のある人がいた場合は救護室へ誘導し、保健所への連絡等を想定していましたが、感染症対策の徹底により、そうしたケースはゼロでした。

## 2. 出展社の展示

### PHOTONEXT2022 会場 MAP



・PHOTONEXTの前身「スタジオ写真フェア」から数えて18回目の開催、PHOTONEXTとしては12回目の開催となった今回、衣装関係をはじめ14社の新規出展があり、多彩な顔ぶれとなりました。

・展示ホールでは、最新の写真機材、アルバム、ソフトウェア、プリントサービス、関連用品などが展示されました。日本のプロフェッショナル写真分野に関わるメーカー、商社、ラボ、流通などの各社が参加し、写真館、写真店、DPショップ、フォトグラファー、ブライダル分野、家電量販店、出版、印刷、デザインなど幅広い層に、最新のビジネス機材&ソリューションの提案が行われました。

・今回の新規出展社のなかには、衣装のほか顧客管理シ



ステム、ワークショップ等を通じてニューボーンフォトを啓蒙する展開も見られました。各社ブースのハイライトは、主催者が発行する「スタジオNOW」に掲載しました。

### 3. 展示会場および別会場での開催イベント

#### メインステージ A・プログラム

6月7日(火)	6月8日(水)
「浅田撮影局」新しく古い写真館を目指して 浅田 政志 (写真家)	知って得するポイント満載！ インスタ活用で集客力さらにアップへ！！ 早坂 華乃 (プライスレスモメント)
《特別セッション》写真整理がもたらすプリント需要拡大 そのために必要な取り組みとは？！ 浅川 純子 (写真整理協会) 水上 和弥 (PFU) 窪山 ひろこ (ブルームギャラリー) 笠原 祐貴子 (カメラのキタムラトレッサ横浜店) 林 茂行 (生前整理普及協会)	《特別セッション》KodomotoCameraFes! ・発信力を味方につけて理想のお客様と出会える秘訣 鶴岡 悠子 (美・感・生 ミライ写真 Labo) ・子育ても仕事も！欲張りな夢を叶えるスタジオ作り♡ ai (I studio)
家族写真で顧客 / スタジオ・フォトグラファー / 写真業界 「三方よし」の世界へ！ 青木 水理 (家族写真プロジェクト)	・心ときめくフォト ブース制作 5 つのポイント 古城戸有加 (フルキドユカ) ・リピーターと新規獲得の効果的集客術と効率的マルチタスク術 今井しのぶ (こどもとかめら)

#### メインステージ B・プログラム

6月7日(火)	6月8日(水)
生け花の使い方から選び方まで より美しく仕上げるニューボーンフォト 筒井 亜矢子 (Studio womb)	保坂さほ・末吉瑞紀 キッズフォト・トークショー 保坂 さほ (H.office) / 末吉 瑞紀 (unigraph)
さらなる売上増に結び付けるための 「仕込み」「システム化」「ブランディング」 鷲津 敬之 (ダブル・エディション)	育児も写真も両立したい！ 8畳で工夫するおうち写真館 小畑 トモコ (フォトリエ)
CLIMAX シューティング Live ! 長岡秀文 (写真家・クリエイティブディレクター)	ストーリー性あふれるフォトウェディングと ママ目線によるスタジオづくり 藤井 文香 (WISTERIA)
感動あふれるスタジオ創造と 「写真×社会貢献」で固定概念を打ち砕く！ 才原 貫喜 / 伊藤 彰 (フォスタジオ Merci)	人生 100 年時代の新文化 40-60 代女性の 「セカ活」が写真と記録にもたらす可能性 増田 早希 (セカミー)
B to B ビジネスでのマッチング戦略「一眼動画やドローン によるムービー制作で新規事業拡大」 林 義明 (林写真館)	

・セミナープログラム数は約 40 本、前年並みのボリュームとなりました。2 日目の最後のプログラムまで聴講する来場者も多く、今回も滞留時間の長さを印象付けました。業界団体主催セミナー（一般社団法人日本写真学会、写真感光材料工業会、日本フォトイメージング協会）も、前回と同様の規模で実施しました。

#### ■メインステージ

・その年の PHOTONEXT を象徴する大きなテーマに基づいてセミナー講演を行うステージとして、前回に引き続き今回もメインステージと称して、A と B の 2 つに分けて繰り広げました。



・両ステージに共通していたのが「女性講師陣」を中心としたことです。昨今、女性フォトグラファーの比率が高まってきたなかで、経営ビジョンから撮影現場の実態、商品やサービスの作り方、そのあり方まで、女性目線で語られるリアリティあふれるプログラムを多数用意しました。

・さらに本年は、「家族写真を撮ることの意義」と「撮影写真をプリントに残すことへの価値」という2大テーマを掲げました。前者は、主にはメインステージAにて繰り上げました。

・2021年に、スタジオやフォトグラファー向けのコンテストとして「家族写真グランプリ」（主催：家族写真プロジェクト）が開催されました。株式会社プロメディアは後援企業として関わり、自社が発行する月刊誌「スタジオNOW」の表紙にグランプリ受賞作品を掲載したほか、会期中はメインステージA付近のギャラリーに受賞作品を掲示しました。

・このコンテストの審査委員長を務めたのは、写真家の浅田政志氏で、映画「浅田家」のモデルとなったことでも知られています。6月7日のメインステージAのトップバッターとして登壇し、家族写真に対する並々ならぬ想いを、これまでに撮影してきた数々のショットとともに語りました。



・また同日は、家族写真プロジェクトを運営する一般社団法人日本おひるねアート協会代表理事の青木水理氏による講演もメインステージAで行われました。スタジオやフリーランスとして活動するフォトグラファーが、家族写真の撮影に関わることの意義など、家族写真グランプリの開催を通じて得られたことも含めて触れていました。

・もう1つのコンセプトに挙げた「プリントにして残すことへの価値」については、メインステージAに隣接する主催者コーナーと連動しながら、主には一般社団法人写真整理協会および写真整理アドバイザーなどによる「写真整理」にスポットを当てた提案が行われました。

## セミナールーム・プログラム

6月7日(火)	6月8日(水)
<b>ライフスタジオが提案する新しい空間と写真スタイル</b> 鄭 光喆 (ライフスタジオ) 協力：アップルツリーファクトリー	<b>変化するキッズフォトマーケットへの柔軟な対応</b> やまだ たかし (九条撮影道具店) 協力：アスカネット
<b>2022年最新ソフトフィルター活用術</b> オオヤマナホ (日本写真講師協会認定講師 NAHONEIGE PHOTOGRAPHY 主宰ソフトフィルターの鉄人 [母]) 協力：ケンコー・トキナー	<b>【主催者企画②】</b> <b>元CA &amp; 現役キャスターが伝えるワンランク上の女性起業家が            いまこそ求める撮られ方</b> 植木 奈緒子 (撮られ方研究家フォトグラファー)
<b>使いやすい! GODOX を活用したビジネスポートレート撮影</b> 早坂 華乃 (ブライズレスモメント) 協力：ケンコープロフェッショナルイメージング	<b>【主催者企画③】</b> <b>今流行のSNS「TikTok」のビジネス活用            &amp; ショート動画の作り方</b> 嶋 都支子 (micia luxury)
<b>Phottix ライティング機材活用術</b> 関 一也 (+ ONE Film Works) 協力：Phottix / Loupedeck	<b>【主催者企画④】</b> <b>PDA GALLOP ONLINE RADIO 番外編            フォトネクスト2022を終えて。</b> 山下 亮 (PDA GALLOP)、ほか
<b>【主催者企画①】</b> <b>日本ニューボーンフォトセーフティ協会セミナー</b> フィステイク・マジ / 中賀 洋一 (ニューボーンフォト) 山口 ゆりの (ニューボーンフォトセーフティ協会) / 有賀 廉尚 (A_Creation)	



・メインステージBも、女性フォトグラファーが経営する「おうち写真館」や、コロナ禍で需要増加傾向にある「フォトウェディング」にスポットを当てたプログラムを多数用意しました。

### ■セミナールーム

・出展社が主体となっていく公開セミナーは、単なる自社製品のPRを行うのではなく、外部講師を招いて実施することで、多くの来場者を吸引しました。本年は5社がエントリーし、撮影から出力まで最先端のフォトビジネスに関するセミナーが行われました。

・さらに主催者企画として、3本のセミナーも実施。このなかでは、昨今話題のSNSツール「TikTok」によるビジネス活用やショート動画の作り方など、今までにないテーマも盛り込まれました。

### ■アウトレットコーナー

・出展社が現行品以外の商品を出品する人気の物販コーナー。本年は18社が出展し、撮影機材や撮影用小物のほか、振袖やドレス、子供服などの衣装も多数販売され、



お買い得商品を求める来場者を中心に、2日間とも例年通り賑わいを見せました。密を避けるため入場規制し、待機列では間隔を空けて並び、入口にて手指消毒をするなど、前年に引き続き感染症予防対策を講じました。

### ■ギャラリー

・本年の新たな展示企画としては、後述する「NAPA2022プリントコンペ」の入賞作品のほか、家族写真グランプリ受賞作品展を実施しました。また大好評の「こどもとカメラ写真展」や、ワールド・フォトグラフィック・カップ (WPC) 受賞作品展 (表彰式はメインステージAにて6月7日に開催)、日本写真館賞受賞作品展 (同) と、バラエティに富んだ作品が展示され、見応えのある内容となりました。

### ■有料セミナー

・本年も3本に厳選して実施。フォトグラファーであり、NAPA2022プリントコンペ審査委員長を務めた David Edomson 氏による来日特別セミナーのほか、Tokyo My Story・清水温子氏によるムービー撮影&編集テクニック、フォトスタジオムーンテラス・石井美帆氏によるニューボーンフォト関連プログラムも用意しました。



## ■ NAPA2022 プリントコンペ

・2022年よりPHOTONEXTの開催に連動して、新しいフォトコンテストを企画。「NAPA～Nippon Fine Art Photographers Association～2022プリントコンペ」と称して、フォトグラファーの社会的ステイタスアップとさらなる撮影スキルアップを目的に、芸術性あふれる作品を募集しました。

・審査員には、世界中のフォトグラファーが挑戦する国際フォトコンペティション「WPPI」において高い実績を誇り、グランドマスターの称号を得るとともにジャッジを務めるDavid Edomson氏を審査委員長に、国内でも名だたる実力者を揃え、総勢8名で構成しました。

・マットボードに装丁されたプリント作品346点を、PHOTONEXT 2022の前日である6月6日と会期初日の7日にかけて公開審査を実施（会場撮影：後呂健児）。公平性を重んじ、審査中は応募者の名前や所属を公表せず、審査員は誰の作品なのかが伏せられた状態でジャッジしました。万が一、誰の作品なのかがわかってしまった場合は交代。基本5名でジャッジし、ローテーションしながら進行了しました。

・また、付けられた作品に不服のある審査員は「チャレンジ」を申請できる制度を導入。再審査を要請するとともに、付けた点数の理由、不服と感じた点なども公開しました。参加者は、そこでフィードバックが得られ、自身の作品や撮影レベルと向き合う機会となりました。



・前撮りや当日撮影を含むウェディング、ファミリーやペットなどのポートレート、コマーシャルをはじめとするクリエイティブ、学生を対象としたプレミアの4部門・8カテゴリーを設け、各カテゴリーの上位入賞者と、各部門で1位に選ばれた作品のなかから最高権威の「グランド・アワード」を選出。6月8日にメインステージAで表彰式を行い、審査委員長よりトロフィーが贈呈されました。

## 4. 2023年に向けて

・次年度の開催は、パシフィコ横浜Bホールで、6月6日（火）～7日（水）の2日間、搬入日は同5日（月）に決定いたしました。

・主催4者は、定期的に月1回のペースで実行委員会を開いて開催の準備活動を行ってきました。引き続き実行委員会での各種企画立案、準備作業を中心にして、さらに充実したフェア開催を目指します。

・最新情報は公式ホームページのほか、公式LINEアカウントをはじめSNS、通信誌「NEXT INFO」などで発信。また、状況に応じてオンラインによる特別セッションや関連プログラムを実施し、本番に向けて盛り上げていきます。

